



射水

IMIZU



特集 新嘗祭の古儀復興

射水神社社報 第27号

若水



射水神社宮司
松本正昭

平成二十九年を迎え、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。
元日、早旦、歳旦祭を奉仕申し上げ、皇室の弥栄と国家の隆昌、崇敬奉賛会員、崇敬者各位の繁栄、ご多幸を祈念申し上げます。

さて、今の世に、いかに文明が進んでも、大自然の脅威は変わりません。我々の祖先は、毎年台風や地震が襲来する過酷な自然環境の中で、人の力では超えることの出来ない自然を恨まず受け入れて参りました。

そして、自然と生活は対立的なものではなく、自然の摂理に順応し、自然そのものを神と崇め尊び畏みつつ、自然の恵みに感謝しながら稲作を基軸に「文化」と「精神性」を育んできました。

温暖湿润気候の自然環境の恩恵により発達した稲作文化と、稲作の要となった水を中心とする村が確立され、水には神を見、水の流れを生活心情、さらには生きる哲学にまで高めた精神文化、このような日本人と水との関わりの中から、水信仰の文化を育んできました。

人々は滾々と湧く清水に神秘を感じ、神々がもたらしたものだと考えました。そして、その賜物である水で、神々をもてなしました。

元旦の朝早くに汲む水を「若水」といいます。

元々をいえば「若水」は、古代、立春の日に宮中の主水司から天皇に水を献上し、朝食の時神々に供えたのが始まりでありました。これがのちに正月に家長が汲み、神棚に供えるようになったようでありました。

平安時代の法典である『延喜式』所載の「出雲国造神賀詞」に、
彼方の古川原、此方の古川原に、生なま出、若水わかみづ沼間の、弥若いやわかえに、御若みわかえまし、すすき振遠ふりさくと、美の水うつみの祢ねを知しに、御表みうへし知ますと記されますが、この「若水」というのは若やぐ霊力をもつものを意味する言葉だったようです。

また、『万葉集』にも変若水をかみづを詠んだ歌は幾つか見られ、「白髪生ふることは思はず変若水はかにもかくにも求めて行かむ」（巻四・六二八番歌）の「変若」とは若返ることです。

このように水には魂を若返らせる霊力があると考えられてきました。日本の神様は水の霊力によって生まれ、水の霊力によって毎年生命を新たにしている。よって、日本人は、神を生み、神を年毎に新たにする水を崇め、その霊力を自分たちの身の上に欲したのであります。

元来、日本人の人生感では、毎年正月を期して生命が甦ることが出来るものと考え、そのため、神からその新しい魂をもらう信仰がありました。それが「若水汲み」と結びついたのでです。

日本人にとって、水は神聖な信仰の対象であり、恐れであり、共同体の「絆」でもありました。

水を通して、我々日本人の生活の中に、精神性が育まれてきましたが、今日の私たちは、水の有難さや自然の恵みを忘れ、一方的に自然環境を破壊しています。

水を敬う信仰や習俗、この先人の教えに今、我々は学ばなければなりません。

新たな年を迎え、皆様方の更なる躍進、若返りとご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

射水神社とともに歩む高岡の街



崇敬奉賛会総裁
橋 慶一郎

昨年、平成二十八年は、熊本地震を始め、各地で自然災害の被害に見舞われ、改めて自然の様々な姿が心に焼き付く一年でした。防災の備えの大切さに思いを致す一方、豊かな自然の恵みに感謝し、御神威の発揚に努めることを自らにも課さねばと感じております。

さて、一昨年の式年大祭を振り返って、明治八年当時、高岡城本丸跡に御遷座頂いた目的は、古御城の地を民間への分割払い下げから守り、街の宝として後世に残すためでした。江戸時代の本丸跡に射水神社に鎮座頂くことで、公の場として公園指定ができませんでした。

爾来、古城公園は市民の憩いの場として広く親しまれ、奇しくも御遷座百四十年を迎えた平成二十七年に「高岡城跡」として国が指定するところとなりました。これから、歴史文化都市として高岡の街をさらに磨き上げて行く上で、古城公園すなわち射水神社の果たす役割は重要なものがあります。今後、市民体育館を始め他の公共施設が公園外へ移転して行く中、射水神社を核に新たな古城の地の姿をじっくりと描き、形にして行く事を大いに期待するものです。

本年も松本正昭宮司のもと、射水神社のますますの隆盛を願い、その御神徳を得て、地域が栄える一年となるよう、崇敬奉賛会役員、会員の皆様とともに努力して参ります。

この一年の、国、県、また高岡の町々里々の弥栄と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

次なる大祭に向け気運造成の年に



崇敬奉賛会会長
穴 田 甚 朗

新年明けましてお目出とうございます。皆様方には、ご家族お揃いで初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、当社社崇敬奉賛会に対しご支援・ご協力を賜わり誠に有難うございます。何卒本年も宜しくお願い致します。

顧みますれば、昨年は過ぐる年盛大に挙行された「御鎮座千三百四十年・御遷座百四十年式年大祭」を恙なく終え、次の大祭に向けてのスタートの年でありました。大祭の成功に向け結成した式年大祭奉賛会は、その使命を完遂して六月に解散式を行い、向後はこれまでの崇敬奉賛会として再組織し、来る百五十年の式年大祭に向け、当神社のさらなる御神威の発揚に努めることを申し合わせました。

こうした中、松本宮司はじめ神職・職員は積極的に当神社の御神徳の宣揚・護持運営に努力しておられるに接し、崇敬奉賛会としても祭儀の奉賛や、新たな教化活動の展開、そして何よりも次の大祭に向け気運の造成を図る年に本年はしたいものと考えております。何卒崇敬奉賛会員はじめ皆様のご協力をお願い致します。

今年の干支は酉年であります。古くから鶏の鳴き声は夜明けを告げるものとして神聖視されてきました。

当社の新たな発展に向け、さらなる御神威の発揚に努め、併せて崇敬奉賛会会員各位、そして皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

特集

一年の総りに感謝を捧げる 『新嘗祭』 『新史料発見』 古儀を復興



県内外から寄せられた進納品

I、新嘗祭とは

年間六十八度を数える主だった祭典の中で、最重儀の大祭式で行われる四大祭のひとつである『新嘗祭』を十一月二十三日午前十時より執り行いました。

二月の祈年祭（大祭式）と対をなすもので、御神前に五穀をはじめ、海川山野の収穫物を捧げて、今年の豊かな総りとさまざまな産業の振興発展に感謝するお祭りです。

古来より宮中および、伊勢の神宮、全国の神社で行われ、宮中神嘉殿では、天皇陛下御親ら新穀を神様に捧げられます。

II、新史料の発見

九年後の遷座百五十年祭に向け、大正十三年に発行された『射水神社志』以来の本格的な冊子の完成を目指す社誌編纂事業における関係史料の蒐集の過程で、本年十月十日に都内で新たな史料が収蔵されていることを確認しました。十月十五日付で所有者より譲り受け、十一月十八日に報道関係者へ特別に公開されました。尚、その内容・体裁等について、現在も調査を行っています。

今回新たに発見された史料は、神社旧蔵のもので、昭和二十一年四月一日から同二十二年五月二十一日頃までの記録、さらに「神社祭儀案内状」「進納者名簿」「神社略記」「神饌料包紙」等の実物見本綴で、大半が藁半紙に孔版刷ですが、若干の肉筆を含むものです。数枚毎に紐で綴じられており、総数は約七十枚に及びます。



Ⅲ、古儀復興に向けて

前述の史料によると、当年の豊穰・豊漁の報賽を捧げて神恩に感謝する本社の新嘗祭には、かつて富山県知事始め、各郡市長、総代らが参拝、御神前には県下一円よりの特産物を「進納品」（新米・酒・魚・海菜・野菜・果物・生花・工業製品など）としてお供えし、歌舞音曲が奉奏されていきました。この度、古儀復興へ向けた契機として、県内外の崇敬者各位に特産物の進納を募りました。

当日、御神前には今秋収穫された新米や、酒の幸、山の幸をはじめ、伊勢の神宮式年遷宮で御神宝の奉製に用いられた「越中福岡の菅」の菅笠、来年の干支である「酉」の高岡銅器など、例年の四倍となる進納品が寄せられました。



各社新聞で報道された記事

新嘗祭進納者芳名一覽

一、五穀の部

新米

高岡市農業協同組合
石川県志賀町在住崇敬者

紅白餅

射水神社崇敬奉賛会
高岡市護国神社奉賛会

いみづ協賛会

小豆

石川県志賀町在住崇敬者

一、御神酒の部

清酒

穴田 甚朗
林 松夫

佐武峻三久
荻原 隆夫

広島 康雄

高岡交通(株)

読売新聞北陸支社

北陸銀行高岡支店

(株)北陸建材社

塩崎商衡(株)

茶道清風の会

(株)山内神仏具店

森田建設(株)

(株)山本建成工業

高岡市弓道連盟

富山テレビ放送(株)

高岡支社

北陸総合警備保障(株)

高岡支社

カマタニ印刷
山田酒店

あけぼの敬神講
戸井 貢

濁酒 中西 邦康

麦酒 いみづ協賛会

一、海川の部

鯛・ガンド (株)高岡水産物市場

ししゃも (株)正三商店

蟹 (有)宮一

干物 (有)橘楼

昆布 (株)室屋

扇子昆布店

一、山野の部

椎茸 (株)北翔

薩摩芋 太閤堂

薩摩芋・南瓜 新田孝次郎

一、果物の部

林檎 丸果(株)高岡青果市場

蜜柑 (株)フレッシュ佐武

柑子 向山 耕司

柿 富山県高岡市在住崇敬者

一、菓子の部

越中銘菓 (株)大野屋

(株)中尾清月堂

一、工業製品の部

高村光雲作 干支「酉」

ブロンズ像

(株)織田幸銅器

越中福岡「菅笠」

城山 孝

一、幣帛料の部

穴田 甚朗

林 松夫

広島 康雄

(株)フレッシュ佐武

読売新聞北陸支社

塩崎商衡(株)

黒谷美術(株)

(株)日東

森田建設(株)

高岡市弓道連盟

高岡ミュージックセンター・

オオタピアノ

あけぼの敬神講

藤川 達三

玉井 幸雄

戸井 貢

江守 榮信

石灰 昭光

島 啓介

太田 奈緒美

(敬称略・順不同)

杜の景色

祭事暦 (下半期)

12月31日	除夜祭	毎月1日 朔日祭・23日 月次祭
12月29日	年越大祓	
12月26日	煤拂祭	
12月23日	天長祭	
12月21日	冬至祭	
11月23日	新嘗祭	
11月22日	幸ひ守清祓式	
11月15日	蒲鉾昆布奉献祭	
11月3日	明治祭	
10月17日	神嘗奉祝祭	
10月4日	高岡市護国神社 秋季例大祭	
10月1日～11月30日	七五三まつり	
9月26日・27日	崇敬奉賛会研修旅行	
9月25日	院内社秋祭	
9月22日	日吉社秋祭	
9月16日	秋季皇霊祭	
8月27日	諏訪社例祭	

神主さん、巫女さんを学ぶ 「十四歳の挑戦！」

今年も「十四歳の挑戦」で、市内の三中学校の生徒さんたちが当社の神主・巫女さんについて学びました。

神社の一日は、毎日清掃することから始まり、その後、朝拝とのお参りでお祓いをうけてから、それぞれの仕事に励みます。今回も作法の練習や、授与所での奉仕、披露宴会場の準備などを奉仕いただきました。

限られた時間でしたが、奉仕をされた皆さんの今後の力となれば嬉しい限りです。

・高陵中学校
・南星中学校
・伏木中学校



社殿周りの清掃



授与所での奉仕

菊花香る 明治祭

十一月三日は、我が国を文化の薫り高い近代国家へと導かれた、明治天皇の誕生日にあたります。当社祭祀規程に則し八台の神饌をお供えし、宮司が祝詞を奏して、玉串を奉りました。

明治天皇の御聖徳を仰ぐ、このお祭りでは、皇室の弥栄、国家の繁栄、崇敬奉賛会員はもとより国民の安寧とともに、すべての諸産業・文化の振興と平安をお祈り致しました。



祓いをうける神職ら



神前に祝詞を奏上する宮司

健やかな成長を祈願

蒲鉾昆布奉献祭

全国豊かな海づくり大会への行幸啓と「蒲鉾九百年」を記念して、昨年初めて行いました。

本年も子供たちの健やかな成長を祈願して、蒲鉾が「天野屋蒲鉾店」「富山ねるものコーポレーション」より、昆布は「榎室屋」より、それぞれ献納され、大前に献じられました。

七五三当日、十一月十五日の祭典後には、お参りに来た子供たちに蒲鉾が振る舞われ、お供えされた越中ならではの謹製「黒とろろ昆布」も撤下品として配られました。



蒲鉾を食べる子供たち

晴れやかに

七五三まつり

十月一日より十一月三十日の間、本年も七五三のお祝いを迎えた、たくさんのお兄ちゃん、お姉ちゃんがお参りに来てくれました。

連日、千歳飴を手に元気な声が境内にこだまし、神社が子供たちの遊び場であった頃の記憶を思い出させてくれました。

元気に、そして立派に成長した姿をご覧になった射水の大神様も大変お喜びのことと思います。ご家族の皆様、誠におめでとございました。

家族の絆を確かめる

冬至祭

一年で最も昼が短く、夜が長い「冬至」の日、丸果(株)高岡青果市場ご奉納の「柚子」百二十個と南瓜を雅楽の名曲「蘭陵王」奏楽のもと、大前に献供しました。

平成二十三年から行われている神事で、東日本大震災の記憶を忘れることのないよう、さらに本年発生した災害からの復興と、各家庭の幸せを祈り、宮司が祝詞を奏上しました。

祭典後、ご参列の皆様には、撤下の柚子をお配りし、柚子茶で体を温めていただきました。



舞楽「蘭陵王」を奉奏

遠江国一宮と久能山東照宮を訪ねて

崇敬奉賛会 理事 林 松夫

平成二十八年九月二十六・二十七日と崇敬奉賛会研修旅行で遠江国とむらのくにの一宮・小國神社「おくに」と濁点をつけて呼ぶ人がいるが、「おくに」である」と久能山東照宮の正式参拝に参加させていただきました。

本年は天候が不順で心配しておりましたが、神のご加護か、研修の二日間はよく晴れ、和気藹々と楽しい旅行でした。

早朝六時半出発、一路小國神社へと向かい、十一時過ぎに到着しました。遠江の国は今の静岡県西部であり、小國神社はその一宮であります。旧社格は国幣小社ですが、平成十七年に鎮座千四百五十年祭が行われており、鬱蒼とした三十万坪の広大な森の中に、大國主命を主祭神とする小國神社が鎮座されており、ひときわ神々しい感じを受けます。



落合宮司の講話

都合で欠席された松本宮司の代理として出席された炭谷禰宜と村本理事以下全員で参拝を済ませた後、宮川のほとりを歩いてバスに乗りましたが、神社はもみじの名所としても有名で、本殿に向かっ

て右側の宮川沿いには鮮紅色の「もみじ橋」を挟んで千本のもみじがあり、時期的に紅葉が見られなかったのは、残念でしたが、澄み渡った水と柔らかい緑に包まれ、紅葉の時期の見事さが想像される光景でした。

ついで神社の近くの久米吉で宮前田楽の昼食をいただきましたが、まことに結構な味付けのこんにやくと神社より頂戴した白酒でありました。

ついで静岡市丸子の吐月峰柴屋寺で京都の東山を模した竹林から昇る月の風景が有名な庭を眺めた後、焼津ランドホテルに到着しました。

私も夫婦は八十歳を過ぎていますが、この年まで富士山をゆくり見ることがありませんでしたが、ロビーからテラスに出てやっと念願の富士を見て感慨ひとしおでした。

翌日は日本平で青空の中にそびえる富士山をゆくり眺め、ケーブルに乗り、久能山東照宮では落合宮司による社頭案内で国宝の神殿と家康御廟所を拝し博物館を見学、帰路につきました。

ご承知のごとく大國主命おおみけのみこと（大己貴命）については歴史書である『古事記』の冒頭に有名な神話のせられしていますが、神道は多神教で、寛容で、人間的でもあり、自然への畏敬を忘れていない素晴らしいものだとつねづね思っており、今回は霊峰富士山、小國神社、久能山東照宮を拝し、その感を強くしております。



◇良い夫婦の日◇ 11月22日

花婿・花嫁姿のお守り

「幸ひ守」をお祓い

平成二十五年の「良い夫婦の日」(十一月二十二日)に花婿・花嫁姿をあしらった特別なお守りを初めてお披露目しました。

このお守りは、当社の巫女や結婚式場のウェディング・プランナーとデザインを相談して、新たに京都・西陣で江戸時代(安政二年「一八五五」)を創業とする神符守札の奉製所が初めて奉製したもので、近年は「和婚」とも呼ばれ、いま人気が高まって、近年は「和婚」とも呼ばれ、いま人気が高まっている。日本の結婚式をイメージし、新郎は日本男児の最高礼装「紋付羽織袴」、新婦は花嫁衣装の代名詞でもある「白無垢」姿をそれぞれ織りで表しました。

我が国の織物でも高い品質を誇り、高度な技術によって「織り」にこだわる「西陣織」で奉製され、「お二人に行く末長く幸せが続きますよう」にと、「幸ひ守」と松本正昭宮司が命名しました。

この「幸ひ守」は、結婚を決められ、式場見学のために射水神社にお参りをされたお二人にだけ特別にお渡しし、このころのよりどころとして晴れの結婚式の日を迎えていただくものです。

本年も「良い夫婦の日」と提唱されます十一月二十二日午前十一時より儀式殿にて清祓式を執り行い、お祓いを致しました。



デザイン原画

※通常の神札・お守りのように授与所でお受けすることは出来ません。



幸ひ守と一緒に渡す「えんむすび絵馬」



写真展 ふるさとの風景

「いみづのかみのやしろ——高岡町民と共に歩みし射水神社——」を初開催

私達が普段、当たり前のように見ている風景も、やがては新たな風景へと生まれ変わっていきます。日々変化を遂げる風景を記録し、後世に伝えていく資料として、写真があります。

写真は、撮影された時代を生きた人々にとって、懐かしい風景を思い起こさせる大切な宝物であり、歴史を知る上では欠くことの出来ない貴重な資料でもあります。

現在、射水神社の鎮座される高岡古城公園は、「古御城ふるおしろ」と呼ばれ親しまれ、服部嘉十郎らによって、金沢藩による民有地としての払い下げの危機を脱して、明治八年七月に「高岡公園」として残り、さらに同年九月には射水神社が二上山より遷座されました。

その後、公園は昭和四十年に富山県指定史跡、昨年の平成二十七年には国指定史跡となりました。その中に静かに佇む射水神社は四季を通じて朝夕に多くの方がお参りされ、その姿は昔も今も変わりません。

当神社では、十年に一度の式年大祭に併せて、平成二十三年よりこれまで五年間に亘り、神社史編纂の一環として、新たな資料の蒐集、発掘に努めています。

高岡町民が一丸となって護り伝えた、ふるさとの歴史に触れていただく機会となるよう四月二十三日から七月二十四日まで開催した本展では、このたび蒐集した資料を中心に、これまで当社が所蔵してきた資料を加え、長く地域の人々の「ここ」の拠り所々々となってきた射水神社の明治から現代に至る社頭のうつり変わりとともに、今日その姿を拝することの出来ない貴重な建造物もご紹介しました。

①越中国高岡国幣中社射水神社ノ図



当神社は、延長5年(927)撰進の『延喜式』神名帳では名神大社、明治4年(1871)に県内最高位の国幣中社に列せられた。国幣社としての諸条件を鑑み、明治8年(1875)に高岡古城公園(当時、高岡公園)本丸跡の現鎮座地に遷座された。写真には遷座直後の大拝殿と装束姿の神職が見える。拝殿は現在の倍近くの規模を誇ったが、明治14年(1881)の大雪によって倒潰した。



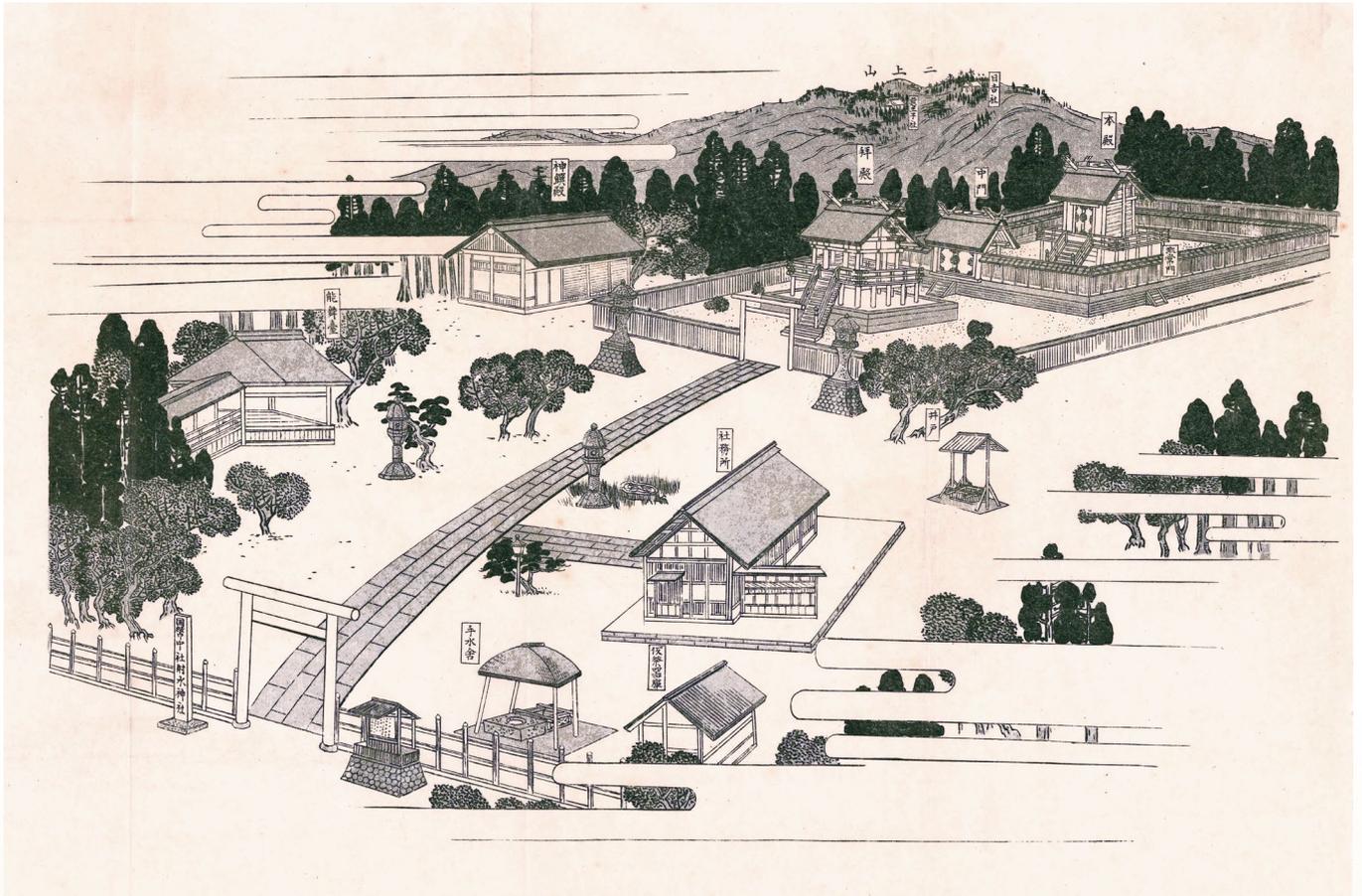
年代：明治40年（1907）～大正6年（1917）
両部型の大鳥居で、有栖川宮熾仁親王御真筆の扁額が見える。

③ 絵葉書「射水神社（前景）」
(THE SHASUI SHRINE)



年代：明治40年（1907）～大正6年（1917）
明神型の大鳥居で、奥にはかつての第一鳥居と高床の拝殿が見える。

② 絵葉書「高岡古城公園射水神社」



明治35年（1902）に再建された社殿の形式は神明造りで、本殿・中門・拝殿が一直線に並び、中門から出た透塀が本殿を囲むという配置形式は明治時代に適用された「神社制限図」と同じであり、社殿の規模も、社務所以外は中社の規模制限に従っている。『国幣中社射水神社志』（高野義太郎著 大正13年〔1924〕9月13日発行）所収の鳥瞰図。

④ 射水神社境内図



年代：大正7年（1918）～昭和7年（1932）
神明型の大鳥居の奥には、昭和4年（1929）の大嘗祭御下賜鳥居。

⑥ 絵葉書「（高岡名所）射水神社」



年代：明治40年（1907）～大正6年（1917）
鯨幕の張られた幄舎は、祭典時に設けられた神饌所と思われる。

⑤ 絵葉書「国幣中社射水神社御本殿」

⑦ 絵葉書「(高岡名勝) 射水神社」



社 神 水 射 (勝 名 岡 高)

年代：大正7年(1918)～昭和7年(1932)

昭和4年(1929)の昭和天皇即位の礼の大嘗祭にあたって下附された鳥居については「御下賜鳥居二関スル一件書類」として記録が残されている。現在、同じ場所には、伊勢の神宮から特別に譲り受けた外宮の「板垣北御門」(鳥居)が建つ。



⑨ 拝殿「平成16年(2004)空撮」



⑧ 絵葉書「射水神社 社殿」

年代：昭和20年(1945)



⑪ 絵葉書「国幣中社射水神社神楽殿」

年代：明治40年(1907)～大正6年(1917)

大正天皇の御大典記念として市民有志等によって献楽会が組織され、大正4年(1915)12月に奉建された神楽殿。



⑩ 絵葉書「国幣中社射水神社 中門」

年代：大正7年(1918)～昭和7年(1932)

天翔り

— おまがけり —

文化庁主催海外展「日本仏像展」に出展

二上射水神社国重文「木造男神坐像」がローマへ

日伊外交関係開設百五十周年を祝し、平成二十八年七月二十九日から九月四日までの間、イタリア、ローマ市のクイリナーレ宮美術館で開催された文化庁主催「日本仏像展」に国の重要文化財に指定されている「木造男神坐像」が展示されました。

平安時代中期の作とされ、射水神社の旧御神躰である男神坐像は、ケヤキ材の一木造りで、坐像でありながら、高さ一二〇^{センチ}を超え、小さな像が多い神像の中でもその大きさは際立っています。

神像の出御と還御に際しては、二上射水神社炭谷一彦宮司が斎主を勤め、炭谷禰宜が奉仕、私も記録・調査のため参列しました。

六月十四日、文化庁文化財部美術学芸課主任で文化財調査官（彫刻部門）の奥健夫氏はじめ、日本通運美術品輸送専門スタッフ、関係者らが来社、多数の氏子崇敬者が見守る中で点検・梱包作業が行われました。

十月四日、展覧を終えた神像は還御となり、出御以来、無事のおもどりを日夜祈り続けた氏子の皆様一同は、安堵の表情を浮かべていました。

現在、地元では文化財保存会（岩田政治会長）が組織され、氏子の方々の弛まぬ努力と温かい心のもと、神像は大切に守られています。

今回の出展を契機として、未来を担う子供達のためにも「ふるさとの宝」の価値を見出し、神職として地域に根付く神社の由緒を正しく守り伝えて行かなければならないと感じた次第です。

本社には男神坐像面の複製（ブロンズ製）が所蔵されています。

いつ製作されたものなのか、詳細は不明ですが、瞋目のつよい面貌や、鉦彫り風に荒く仕上げた特徴をよく伝えていきます。

凡その寸法は高さ十八^{センチ}、幅二十八^{センチ}、奥行き三十五^{センチ}で、筥の紙箋に「射水神社神像複製」と記されています。



神像庫にて

権禰宜（社宝管理担当） 田中天美



丸鑿の痕を平行に整然とつけ、荒く鑿目を残す鉦彫りの技法がはっきりと見て取れる。（本社蔵）



新春祭儀のご案内

昔から「鎮守の杜・神社」では、「祭り」を通して、家族・地域、人と人との絆を育んできました。

一年のはじまりに当たり、ご家族・お友だちと一緒に御参りいただき、ご神縁をお結び下さい。

左義長（射水の火祭り） 一月十四日（土）午後六時

火鑽神事（社殿・祝詞舎） 18時00分
 点火の儀（境内・やぐら前） 18時30分「21時頃まで」

古式の火鑽具によって、「忌火」（清浄な火）を起こし、高さ約十メートル超のやぐらに点火、お正月飾りやお守り、書初などを焚き上げます。この火にあたると一年間風邪をひかないともいい、無病息災を祈って、たくさんの方が御参りになられます。



開運厄除 節分祭 二月三日（金）午後三時

節分は、古来より災厄や邪気を祓い清め、幸福を招き入れる目出度い行事で、炒った大豆を神前に供えた後、「鬼は外、福は内」と唱えながら屋内外に豆を撒きます。

福男と福女の奉仕について

○募 集
 福男五名
 「袴を着て、ご奉仕いただきます」

福女五名

「千早を着て、ご奉仕いただきます」

○対 象

厄年（前厄・本厄・後厄）の男女
 年男・年女の方

○お申込・問合せ

TEL 〇七六六—二二—三—一〇四
 射水神社々務所（担当神職 田中天美）



祈年祭 二月十七日（金）午前十時

「としごいのまつり」ともいい、「年を祈る」と記すように、本年の稲をはじめとする穀物や作物の豊穡、さらには諸産業の発展を祈願するお祭りです。

当社の御社紋には、神鏡にたわわに稔る稲穂が描かれており、五穀豊穡の神様たる御神徳の象徴です。

射水神社





授与所からのお知らせ

次の授与品が新しく頒布されることとなりました。

祈祷御守一新!

皆様には
清々しい新年
をお迎えにな
り、ご家族お
揃いでお参り
下さい。



絵馬「大願成就」

祈禱（お祓い）のお受けの方々にお頒ち致し
ます。
社殿の背後には、射水の大神が国土を平定す
る際に鎮座された二上山が描かれています。
一年のはじまりに特別な願いを込めてみませ
んか。



縁起物「鎬矢」(スタンドタイプ)

昨今の住宅事情による神棚のコンパクト化に対応する為、限られた
スペースでも飾り易い鎬矢をご用意致しました。



特製「御朱印帳」

「御朱印ブーム」と言われるように、当神社へもたくさんの方が参拝に
訪れ、ご朱印を受けて行かれます。
この度、いよいよ当神社特製「御朱印帳」が完成致しました。
尚、限定百冊で「黒色」が特別に頒布されます。



限定版

通常版

社頭の鳥居と紅梅（御神木）。
背面には御神紋に豊かに稔
る稲穂を表しました。

※御朱印は、神仏をお参りした証として
受ける特別な「印」です。神仏ご加護
の籠ったものとして大切にお持ち下さ
い。

ご奉納

一、エアコンプレッサ 壹台

カマタニ印刷 平成二十八年十月七日



(敬称略)

人事

新任

巫女

高橋真都華

平成二十八年
十月一日

平成二十九年祈禱（お祓い）のご案内

個人祈禱

一厄年祓

本厄

- 四十二歳 男 昭和五十一年生
- 三十七歳 女 昭和五十六年生
- 三十三歳 女 昭和六十年生
- 二十五歳 男 平成五年生
- 十九歳 女 平成十一年生

前厄

- 四十一歳 男 昭和五十二年生
- 三十二歳 女 昭和六十一年生
- 二十四歳 男 平成六年生
- 十八歳 女 平成十二年生

後厄

- 四十三歳 男 昭和五十年生
- 三十四歳 女 昭和五十九年生
- 二十六歳 男 平成四年生
- 二十歳 女 平成十年生

一、身祝（男女）

還暦 かんれき 六十一歳 昭和三十二年生

古稀 こき 七十歳 昭和二十三年生

喜寿 きじゅ 七十七歳 昭和十六年生

傘寿 さんじゅ 八十歳 昭和十三年生

米寿 まいじゅ 八十八歳 昭和五年生

一、家内安全祈願

一、商業繁栄祈願

一、合格祈願

一、安産祈願

一、初宮詣

一、その他諸祈願

◎初穂料 五千元より志

（お志により、お酒・鏡餅等をお供え下さい）

団体参拝

※事前にご予約下さい

一、職場安全・商業繁栄祈願等

◎初穂料 二万円より志（お酒二升をお供え下さい）

祈禱受付時間 元日午前0時（番神楽）〜午後五時／二日以降午前九時〜午後五時

萩—はぎ—

狂言和泉流二十世宗家和泉元彌師より、遷座百四十年の式年大祭での神前奉納と「勸進狂言」を記念して、狂言の代表的な「萩大名」にちなんでご奉納いただいたハギが今秋、初開花を迎えました。

和泉元彌師は『万葉集』の朗読劇「ひとりし思へば」に主人公の同伴家持役で出演しており、歌集に最も歌われた花でもあるハギに「ご縁が続きますように」との思いを込められました。



編集後記

今号は『新嘗祭』の古儀復興をはじめ、五カ年をかけて蒐集された古写真の展覧、さらには男神坐像の訪伊など、当社にとって総り多き一年の内容となりました。

神社の歴史は、我が国の根本精神に通じ、それを守るべき我々が自社と地域の歴史を知らぬままに、今後を歩むことは出来ません。まして、歴史を歪曲するような事があってはなりません。

この数々の穂を得て、射水神社とは如何なる由緒を持つ社であるか、また何故、鎮座地としては稀な公園に遷座されることとなったのか、その神蹟を顧み、向後の叡智を結集して行きたいと思えます。

ご崇敬の皆様には、愈々に御神徳を戴かれ、幸多き日々をお過ごしになりますこと、心よりお祈り申し上げます。